

「豊かな大阪をつくる第三回シンポジウム」～橋下維新大阪市政を検証する～

講演概要

(平成 27 年 9 月 23 日 於大阪市立大学) (文責：道下弘子)

橋下維新はブラックデモクラシー

許すな！それは全体主義への危険な道

ブラックデモクラシーとは、議論を無視した多数決至上主義と結託したデモクラシーのことをいう、藤井聡教授の造語だ。それは多数決崇拜、詭弁、言論封殺、プロパガンダの 4 要素が特徴で、全体主義に通じる。橋下維新の手法はこれら 4 要素を満たしている。

【4 要素の実例】

- ①**多数決崇拜**…5 月 17 日都構想が否決された日の橋下は、多数決で負けたということは自分に間違ったところがあったという趣旨を発言。「僕が間違っているなら落とせばいい」と常に公言。
- ②**詭弁**…「大阪府の赤字を減らした」、108 人の学者が発表した意見を「嘘八百」「ぜんぶデマ」という発言を繰り返している。大阪会議をはじめとする悪質な印象操作やすり替え、論拠を示さず断定するなどは常態化している。
- ③**言論封殺**…住民投票、大阪ダブル選挙前に展開している、藤井教授のテレビ出演妨害（大学、テレビ局への圧力文書、国会質問）。
- ④**プロパガンダ**…橋下維新の発信するワンフレーズポリティクス、大量の CM、「大阪都になれば大阪は良くなる」、「橋下をやめさせるな」等の煽り ほか多数。(藤井 聡 京都大学大学院教授)

おばあちゃんが大阪市廃止分割反対の手書きチラシをつくった

「なにわの市民革命」が勝った住民投票

住民投票で反対が勝利したことは「なにわの市民革命」の勝利であった。おばあちゃんが「反対」を訴える手書きのビラを配布するなど、一人ひとりの市民が自覚的・自発的に活動した。これは大阪市民にとって民主主義の学校になったとも言える。

投票結果から分析すると、橋下維新の強力な信奉支持層は 30 代 40 代の男性勝ち組ホワイトカラー層。税金を払うのみで行政サービスを受けている実感を持ってない人々で、大阪市に住み続ける意思が希薄な層（住民投票で賛成票が多かった区は転入転出率が高い）。新自由主義的イデオロギーに幻惑されたサラリーマン層と言い換えることもできる。一方、彼らと真逆の若年貧困層も維新の支持者で、住民投票では「橋下をやめさせるな」という煽りに煽られて賛成票を投じた。

維新との対抗軸は経済至上（市場万能）主義か再配分かが大きな争点。視点を変えると、独裁（多数決）か民主主義か、中央追従か自己決定（自治）かという対抗軸もある。

(富田宏治 関西学院大学教授)

右派と攻撃型ポピュリズムによって強化した維新

維新は 2012 年の国政選挙で比例代表では 20% を得票した。維新の強さは、小さな政府（維新表現では「既得権の排除」）と権力集中（同「決定できる政治」）をめざす右派であるにも拘わらず、右でも左でもない「第三局」であると報道されたこと、およびポピュリズム（大衆扇動・迎合政治）が結合したことが大きい。

そして、①一定の不満のある現状をとにかく変えるというアピール、②「身を切る改革」「税金のムダ遣いをなくす」というアピール、③ポピュリズム型単純化、④単純化、威嚇、個人攻撃などを含む「高度な弁舌能力」、⑤ブームに乗って政治家になりたい人の取り込みで成功したこと、

⑥マスコミによる批判がほとんどないこと、⑦操作しやすい「大衆」が多いことが、維新の強みだ。
(村上 弘 立命館大学教授)

大阪府政・市政を自分の問題として考えよ

市民が正しい知識・正確な情報を得たら負ける！と橋下は知っていた

近年の選挙では、いいかげんなことを言い、人々を煽ったら票が入る傾向がある。橋下維新も当てはまるのは言うまでもない。しかし最大の問題は、橋下維新もマスコミも、市民に維新政治の真実をわかりやすく伝えることをしてこなかったことだ。

政治を自分事として認識しない人が多いことも、維新の躍進を支えてきた。自分たちが幸せになるためには住むまちが良くなければならない、住む国が良くなければならない——わが国ではその発想がない人が多い。一方、このまちの政治が自分の生活に直接関わる、つまり自分事と感ずることができれば、人々は政治をもっと知ろうとする。住民投票で反対票を投じたのはそういう人達である。

橋下は住民投票で敗北したとき「大阪市民の皆さんが恐らく全国でいちばん政治や行政に精通されている市民ではないかと思いました」と言った。これは、橋下自身が、市民が正しい知識・真実を知れば負けると知っていたことを意味する。

ダブル選挙に向けては、維新が行ってきたことの検証、各候補者が提案する施策を、市民一人ひとりの問題であるとアピールすることが非常に重要である。(薬師院仁志 帝塚山学院大学教授)

【語録 PICK UP】

- 橋下政治の特長は、自作自演によって“問題”と“中程度の敵”をつくり攻撃する手法、長期的な視野の欠如、現場を無視した「改革」。
- 大阪人はこれ以上、詐欺師の手口にかかってはならない。もしまた詐欺にかかるようなことがあれば、大阪人は嘲笑的である。
- 国全体でも自治体でも緊縮財政によって成長するなどありえないと、今や明らかになった。橋下維新政治によって大阪がさまざまな側面で凋落した事実を広く府民に知ってもらい、都市は再分配のための装置であると、胸を張って主張すべき。詐欺師の最大の敵は真実なのだ。
- 都構想との戦いは実は新自由主義との戦いだった。
- 直接選挙でたった一人選ばれる首長が行政権を一手に握るのは、実は非民主的である。
首長とは、落選候補者に投票した市民・府民も含めた全体の代表であるから、みんなの声を聞かねばならない。従って、求められる首長像は、自己の主張のみを押し進める独裁型ではなく、みんなの声を聞く度量の大きい調整型の人物である。

【橋下維新政治の検証 7つの事実】 詳細は <http://satoshi-fujii.com/shinnihon2-150923/>

1. 橋下・松井府政は、過激な「緊縮」路線である
2. 橋下・松井府政は、大阪の景気を凋落させた
3. 橋下・松井府政（による景気低迷）で、府民所得が低下した
4. 橋下・松井府政（による景気低迷）で、財政は大幅に悪化した
5. 橋下・松井府政は、中小企業を冷遇した
6. 橋下・松井府政は、「都市計画」を大幅に劣化させた
7. 橋下・松井府政は、「教育」を大幅に劣化させた